

山口学芸大学，山口県立大学における「知的財産入門」 (著作権教育含む)の授業評価アンケートからの一考察

○木村 真二，陳内 秀樹（山口大学 大学研究推進機構 知的財産センター）

1. はじめに

山口学芸大学，山口県立大学，山口大学は，文部科学省の「地域活性化人材育成事業～SPARC¹～」(以下，「本事業」)に，2022年に採択された。本事業の目的は，「大学等が地域の中核として機能していくため，地域社会と大学間の連携を通じて既存の教育プログラムを再構築し，地域が真に求める人材を育成する機関に転換すること」²である。この地域活性化人材として学生が身に付ける資質・能力の一つに「知的財産に関する知識」を設定し，「知的財産入門」(以下，「本科目」)を開講した。山口大学(以下，「本学」)で2013年から学部全学必修で開講済みの本科目を，本事業で他大学に広げたものであり，2024年度に山口学芸大学(以下，「学芸大」)で，2025年度に山口県立大学(以下，「県立大」)で，と順次進めた。

2024年度の学芸大での実施分は，学生授業評価アンケート(以下，「アンケート」)をもとに報告済み³であり，本報では，これに2025年度前期に実施した学芸大，県立大でのアンケートを加え，授業理解や学生の満足度などを考察し，今後の授業改善に向けた足がかりとする。

2. 調査概要

本科目のカリキュラム(表1)とテキスト⁴は，3大学とも同じものである。講義形式は，対面型を基本とし，オンデマンド開講は，県立大は第2回，学芸大では第2・5・7回とした。試験は，本学・県立大では第8回で実施し，学芸大のみ第9回に実施した(第8回は総復習)。試験時間は本学・県立大では50分，学芸大では70分とした。履修者は，学芸大が教育学部教育学科1年生11名，県立大が国際文化学部と社会福祉学部1年生合計157名で，この全員を対象として授業終了後，アンケートを行った。

県立大と本学で共通する質問項目について抽出したものが表2で，考察のための比較対象として，本学教育学部1年生の2か年分⁵のアンケートの平均値を用いた。学芸大独自のアンケートは表3で，授業内容(理解，授業工夫，質問・意見)と学生の取組み(目標達成，興味・関心，満足度)の観点別となっており，最下行には，同学科での

その他の科目(42科目)の平均値を示した。

県立大については，表2をもとに本学と比較し，学芸大については，表3をもとに昨年度との比較を通じて考察する。

3. 結果・考察

県立大の受講者は表2のとおり概ね本学と似た傾向があり，試験の平均点は本学の方が約10点高かった。一方で，本学に比べ「出席率」が低い傾向と「満足度」において一定数の不満層(「あまりそう思わない(3.8%)」)がみられた。自由記述では「専門用語が多く出てきて少し難しく感じた」「(略)実際の事例に適用する『応用力』に自信がない」「課題が多い」等のどちらかと言えば否定的なコメントも一部に見られ，知識定着・応用力に関する不安と授業外課題の負担感が窺

表1. 「知的財産入門」カリキュラム

第1回	第1章 知的財産の全体像
第2回	第2章 著作権の基礎知識
第3回	第3章 著作権法に定められた権利
第4回	第4章 著作権法の個別権利制限
第5回	第5章 産業財産権の基礎知識 ー特許制度ー
第6回	第6章 知財情報の検索・解析・活用(オンデマンド)
第7回	第7章 デザインの保護
第8回	第8章 商標の基礎知識
第9回	試験

¹ SPARC : Superminent Program for Activating Regional Collaboration

² 「地域活性化人材育成事業～SPARC～」文部科学省，
https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/sparc/index.htm (accessed 2025.11.16)

³ 木村真二，陳内秀樹「山口学芸大学における『知的財産入門』(著作権教育含む)の授業評価アンケートからの一考察」，産学連携学会中四国支部 第16回研究・事例発表会講演予稿集，p15-16，2024.12.2-3

⁴ 山口大学大学研究推進機構知的財産センター，これからの知財入門～変革の時代の普遍的知識～(第4版)，日経BP,2023

⁵ 2024年前期119名，後期72名，2025年前期115名

表 2. 県立大・本学の学生授業評価アンケート

		2025年度前期		2024年度前期・後期 2025年度前期の平均値	
大学		山口県立大学		山口大学	
学部		国際文化学部/社会福祉学部		教育学部	
履修者数(人)		157		102	
履修者/アンケート提出率		84%		90.0%	
出席率	90%~	73.0%		91.9%	
	80%~	23.0%		6.8%	
	60%~	4.0%		0.9%	
	40%~	0.0%		0.3%	
	~40%未満	0.0%		0.0%	
時間外学習をどれくらい行いましたか?	あなたは、この授業において、	3時間以上		14.4%	
	2時間程度	26.5%		29.1%	
	1時間程度	37.9%		34.3%	
	30~50分	14.4%		12.6%	
授業理解できましたか?	あなたは、この授業の内容を理解できましたか?	30分未満		6.8%	
	そう思う	43.2%		34.3%	
	ややそう思う	52.3%		59.1%	
	どちらとも言えない	3.0%		5.5%	
	あまりそう思わない	1.5%		1.2%	
そう思わない	0.0%		0.0%		
シラバスに記載された講義のねらいや到達目標を達成したと思いますか?	あなたは、シラバスに記載された講義のねらいや到達目標を達成したと思いますか?	そう思う		31.1%	
	ややそう思う	56.8%		52.2%	
	どちらとも言えない	9.1%		10.9%	
	あまりそう思わない	3.0%		0.9%	
	そう思わない	0.0%		0.9%	
満足度足りましたか?	あなたは、この授業について満足しましたか?	そう思う		49.2%	
	ややそう思う	44.7%		40.5%	
	どちらとも言えない	2.3%		6.3%	
	あまりそう思わない	3.8%		0.3%	
	そう思わない	0.0%		0.6%	

表 3. 学芸大の学生授業評価アンケート

回答	授業の内容						学生の取組み					
	①理解		②授業工夫		③質問・意見		④目標達成		⑤興味・関心		⑥満足度	
	この授業の内容を理解できましたか?		この授業はわかりやすいように準備や工夫がされていませんか?		授業中、あるいは質問用紙等で質問や意見に対応できるようにコミュニケーションが十分配慮されていましたか?		シラバスに記載された講義の到達目標を達成したと思いますか?		この授業に対するあなたの興味・関心は高まりましたか?		この授業について満足しましたか?	
	2025	2024	2025	2024	2025	2024	2025	2024	2025	2024	2025	2024
そう思う	36.4%	52.6%	63.6%	73.7%	72.7%	68.4%	36.4%	47.4%	54.5%	84.2%	63.6%	89.5%
ややそう思う	45.5%	31.6%	36.4%	15.8%	27.3%	31.6%	54.5%	31.6%	36.4%	15.8%	18.2%	10.5%
どちらとも言えない	18.2%	10.5%	0.0%	10.5%	0.0%	0.0%	0.0%	21.1%	9.1%	0.0%	18.2%	0.0%
あまりそう思わない	0.0%	5.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
そう思わない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
この科目の平均(最大値5)	4.2	4.3	4.6	4.6	4.7	4.7	4.2	4.3	4.5	4.8	4.5	4.9
(参考)他科目の平均(最大値5)	4.3	4.2	4.4	4.2	4.4	4.3	4.4	4.2	4.4	4.2	4.5	4.3

の割合が昨年度に比べ低下)。この要因と考えられることとして、試験直後にシラバスを再掲し、本科目が求める知識レベルは「知財の概要理解」であって、それはこれまでの小レポート等で確認できているから自信を持って良いという学生へのフィードバックの有無がある。加えて、昨年度は高校での教職経験を15年持つ教員が主たる授業者であったが、今年度は着任2年目の教員が担った影響も、教育学部という学部特性もあり少なくないとする。

4. まとめ

本科目の試験は、成績が正規分布をとるような難易度であるため半数程度の学生には、「難しかった、理解できていない」という印象が残りがちである。学生自身が科目の目標に到達していることを自認することが、授業の全体的な満足度を上げ、知財アレルギーを生み出さないためにも重要な要素であることは前報でも述べたが、ちょっとした工夫・言葉掛け(数分程度のシラバス達成の振り返り等)がそれらに大きく影響を与えることが今回も示唆された。

以上授業評価アンケートのマイナス要素を強調する形になったが、より注目すべきは、学力差等がある他大学においても同一のカリキュラム・教材・試験を用いて、遜色のない試験結果と満足度が得られた点である。本事業での取り組みは、本科目の他大学への展開における教育効果の再現性と、導入ハードルを下げるひとつの根拠となり得ると考えられる。今後も、本事業での取り組みを活かし、本科目の他大学への展開による知的財産教育の普及拡大を図りたい。

える。本学でも同様のコメントがあり、その対応として、これまでも学生にとって身近な具体的事例(例えば、卒業DVD作成時における楽曲使用の著作権権利処理手続きなど)を取り上げながら、できるだけ平易な言葉での説明に努めることを意識してきた。課題の負担感については、講義中にワークシートや小レポート作成の時間を適宜設け、完成させないまでも仕掛り品状態に導くなどで時間外作業を軽減し負担感を緩和することができる。

次に学芸大については、試験の平均点は昨年度より僅かに高く、県立大の試験の平均点と比べてもほとんど差がなかった。自由記述では「グループワークがあってとても楽しく授業に取り組めた」、「引用やレポートの書き方などこれから必要な知識を知ることができたのでよかった」、「知的財産について何も分からなかったが、一つずつ特許や商標について学ぶことができ置いていかれる心配はなかった」など肯定的なコメントが多かった。それに反して学生の自己評価は昨年度に比べて低く表れた(表3①理解, ④目標達成の「そう思う」)